

蘭越町における

『全国学力・学習状況調査』の結果について
(平成28年度)

蘭越町教育委員会

はじめに

道教委では、今年4月19日に実施した「平成28年度全国学力・学習状況調査」の調査結果を、9月末に公表しました。教育委員会では、本町の調査結果について、道教委が作成した「北海道（公立）における調査結果」に沿って概要を取りまとめました。

今年で10回目となります本調査は、昨年度と同様に悉皆調査で実施され、本町も全小中学校において実施しております。

本調査の目的は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることと、各市町村教育委員会、学校が、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立し、また、各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

本調査によって、測定できるのは学力の特定の一部であることや、学校の教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえて、序列化や過度な競争につながらないように十分に配慮することが必要であります。

その上で、保護者や地域住民に対する説明責任を果たすため、数値を含まない調査結果の状況や傾向を明らかにするものです。

教育委員会では、今後、各学校において本調査の分析を基に、課題や改善の方向性を明らかにした学力向上改善プランの作成を促し、教育指導の改善に向けた取組を進めることとしております。

なお、各学校が取り組む「長期休業中の補充的な学習」、「課外補充学習」など、学力向上のための具体的な活動については、引き続き、予算措置の上、支援することとしております。

【本調査の概要】

- 1 調査期日 平成 28 年 4 月 19 日（火）
- 2 対象学年 小学校第 6 学年、中学校第 3 学年
- 3 調査内容
 - ① 教科に関する調査（国語、算数・数学）
 - ・主として「知識」に関する問題
小学校（国語 A～15 問、算数 A～16 問）
中学校（国語 A～33 問、数学 A～36 問）
 - ・主として「活用」に関する問題
小学校（国語 B～10 問、算数 B～13 問）
中学校（国語 B～9 問、数学 B～15 問）
 - ② 生活習慣や学習環境に関する調査
 - ・児童生徒質問用紙調査～学習意欲・学習方法など
 - ・学校質問紙調査～児童生徒の全体的状況など

4 調査を実施した学校・児童生徒数（全国・北海道数値は、公立校数）

区分 校種	全 国(公立)		北海道(公立)		蘭 越 町	
	実施学校数	児童生徒数	実施学校数	児童生徒数	実施学校数	児童生徒数
小学校	19,335 校	1,021,910 人	1,046 校	40,277 人	2 校	39 人
中学校	9,464 校	996,578 人	607 校	41,236 人	1 校	47 人
合計	28,799 校	2,018,488 人	1,653 校	81,513 人	3 校	86 人

5 教科に関する調査結果

（1）本年度の本町及び後志管内の児童生徒と全道の平均正答率の比較

区 分		小学校				中学校			
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
全道の平均正答率との比較	本町	同じ	やや上回る	ほぼ同じ（上位）	やや上回る	ほぼ同じ（下位）	ほぼ同じ（上位）	ほぼ同じ（下位）	やや下回る
	後志	同じ	同じ	同じ	同じ	ほぼ同じ（下位）	ほぼ同じ（下位）	やや下回る	やや下回る

(2) 過去9年間における本町の児童生徒と全道の平均正答率の比較

区 分	小 学 校				中 学 校				
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	
全道の平均正答率との比較	H19	下回る	下回る	下回る	下回る	やや下回る	下回る	ほぼ同じ	ほぼ同じ
	H20	やや下回る	ほぼ同じ	下回る	ほぼ同じ	ほぼ同じ	下回る	下回る	やや下回る
	H21	ほぼ同じ	下回る	ほぼ同じ	ほぼ同じ	下回る	下回る	下回る	下回る
	H22	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ	やや下回る	下回る	下回る
	H23	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ	上回る	ほぼ同じ	上回る
	H24	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ	下回る	下回る
	H25	ほぼ同じ	やや下回る	ほぼ同じ	ほぼ同じ	やや下回る	ほぼ同じ	やや下回る	下回る
	H26	ほぼ同じ(上位)	ほぼ同じ(下位)	ほぼ同じ(上位)	ほぼ同じ(上位)	ほぼ同じ(上位)	やや下回る	下回る	相当下回る
H27	上回る	相当上回る	相当上回る	ほぼ同じ(上位)	ほぼ同じ(下位)	同じ	やや下回る	ほぼ同じ(下位)	

(3) 教科ごとの調査結果

○小学校国語

<p>○国語A（知識）について、全道の平均正答率が71.0%であり、本町の児童はその割合が同じであり、相当数の児童が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。</p> <p>○国語B（活用）について、全道の平均正答率が56.0%であり、本町の児童はその割合がやや上回り、相当数の児童が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。</p>

○設問別の正答率（正答率及び無回答率の高いもの）

1 小学校国語A（知識）

〈正答率80%以上の設問〉（15問中5）

設 問 の 概 要	出 題 の 趣 旨
漢字を読む （今日は全国的に快晴だ） （お年玉を貯金する）	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む
公園案内図とパンフレットにある表とを関係付けて読み、希望に合うものを選択する	目的に応じて、図と表とを関係付けて読む

〈無回答率 20%以上の設問〉(15 問中 2 問)

設 問 の 概 要	出 題 の 趣 旨
漢字を書く (<u>した</u> しい友人と出かける)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く
ローマ字を読む (h y a k u)	ローマ字で表記されたものを正しく読む

2 小学校国語B (活用)

〈正答率 80%以上の設問〉(10 問中 0 問)

〈無回答率 20%以上の設問〉(10 問中 0 問)

○小学校算数

○算数A (知識) について、全道の平均正答率が 75.3%であり、本町の児童はその割合がほぼ同じであり、相当数の児童が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。

○算数B (活用) について、全道の平均正答率が 44.5%であり、本町の児童はその割合がやや上回り、相当数の児童が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。

○設問別の正答率 (正答率及び無回答率の高いもの)

1 小学校算数A (知識)

〈正答率 80%以上の設問〉(16 問中 9 問)

設 問 の 概 要	出 題 の 趣 旨
905-8 を計算する	繰り下がりのある減法の計算をすることができる
二つの数の大小関係を表す不等号を書く	不等号を理解している
三角形の底辺に対応する高さを選ぶ	三角形の底辺と高さの関係について理解している

〈無回答率 20%以上の設問〉(16 問中 0 問)

2 小学校算数B（活用）

〈正答率 80%以上の設問〉（13 問中 2 問）

設 問 の 概 要	出 題 の 趣 旨
1 辺が 9cm の正方形の縦と横の長さを変えたときの面積を求める式と答えとして、ふさわしい数値の組み合わせを書く	示された条件を基にほかの正方形について検討し、同じ決まりが成り立つかを調べることができる
1 辺が 9cm の正方形に内接する円を書くために、コンパスの鉛筆の先を合わせる位置を選ぶ	正方形に内接する円の半径について理解している

〈無回答率 20%以上の設問〉（13 問中 4 問）

設 問 の 概 要	出 題 の 趣 旨
目標のタイムを求める式の中の 0.4 や 0.3 が表す意味を書く	示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述できる
示された形をつくることのできることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く	示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述できる

○中学校国語

○国語A（知識）について、全道の平均正答率が 75.1%であり、本町の生徒はその割合がほぼ同じであり、相当数の生徒が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。

○国語B（活用）について、全道の平均正答率が 65.0%であり、本町の生徒はその割合がほぼ同じであり、相当数の生徒が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。

○設問別の正答率（正答率及び無回答率の高いもの）

1 中学校国語A（知識）

〈正答率 80%以上の設問〉（33 問中 15 問）

設 問 の 概 要	出 題 の 趣 旨
電話を受けた相手のことを考えた言葉を書く	相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話す
漢字を読む （封筒を開ける） （長年の努力が報われた）	文脈に即して漢字を正しく読む

設問の概要	出題の趣旨
「忘れがたき」の意味として適切なものを選択する	歌に表れた作者の思いを想像する

〈無回答率 20%以上の設問〉(33 問中 0 問)

2 中学校国語B (活用)

〈正答率 80%以上の設問〉(9 問中 2 問)

設問の概要	出題の趣旨
ちらしの表と裏から分かる「暮らしの中の伝統文化展」が開かれるねらいとして適切なものを選択する	文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉える
関連イベントの「～職人の技を見よう～」に参加することができる日付として適切なものを選択する	目的に応じて必要な情報を読み取る

〈無回答率 20%以上の設問〉(9 問中 1 問)

設問の概要	出題の趣旨
図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを書く	本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く

○中学校数学

○数学A (知識) について、全道の平均正答率が 61.8%であり、本町の生徒はその割合がほぼ同じであり、相当数の生徒が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。

○数学B (活用) について、全道の平均正答率が 43.3%であり、本町の生徒はその割合をやや下回っているため、知識・技能を活用する力に課題があるといえる。

○設問別の正答率 (正答率及び無回答率の高いもの)

1 中学校数学A (知識)

〈正答率 80%以上の設問〉(36 問中 5 問)

設問の概要	出題の趣旨
$-3 + (-7)$ を計算する	正の数と負の数の加法の計算ができる

設問の概要	出題の趣旨
方程式 $2x + y = x - y = 3$ から、 x と y の値を求めるための連立方程式を完成させる	2つの等号で結ばれている方程式が表す関係を読み取り、2つの二元一次方程式で表すことができる

〈無回答率 20%以上の設問〉(36 問中 4 問)

設問の概要	出題の趣旨
反比例のグラフから式を求める	反比例のグラフ上の点の座標から、 x と y の関係を式で表すことができる
一次関数の式から変化の割合を求める	一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合が一定で a の値に等しいことを理解している

2 中学校数学B (活用)

〈正答率 80%以上の設問〉(15 問中 1 問)

設問の概要	出題の趣旨
1 試合の時間を 16 分とするとき、1 回の休憩の時間を求める	与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理することができる

〈無回答率 20%以上の設問〉(15 問中 8 問)

設問の概要	出題の趣旨
$DA : DC = 1 : 2$ のときの $\triangle DEC$ がどのような三角形になるかを説明する	付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる
25.5 cm の靴が貸し出された回数の相対度数を求める式を書く	与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することができる
文字を使って手順通りに求めた数から最初に決めた数を当てる方法を説明する	与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができる

6 生活習慣や学習環境に関する調査結果

【児童生徒質問紙調査結果から】

(1) 『学習に対する関心・意欲・態度』

- 国語の勉強が「好き・どちらかといえば好き」な児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校では上回り、中学校ではほぼ同じになっている。
- 国語の勉強が「役に立つ・どちらかといえば役に立つ」と思う児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校では相当上回り、中学校ではほぼ同じになっている。
- 算数・数学の勉強が「好き・どちらかといえば好き」な児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校では相当上回り、中学校では上回っている。
- 算数・数学の勉強が「役に立つ・どちらかといえば役に立つ」と思う児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校では同じく、中学校では上回っている。

(2) 『学習時間等』

- 平日、学校の授業時間以外に1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校・中学校ともに相当下回っている。
- 平日、学校の授業時間以外に1日当たり30分以上読書する児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校では上回り、中学校では相当上回っている。
- 家で学校の授業の予習・復習をしている児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校ではやや上回り、中学校では同じになっている。
- 家で学校の宿題をしている児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校では同じく、中学校では下回っている。

(3) 『基本的な生活習慣』

- 朝食を毎日「食べている・どちらかといえば食べている」児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校では下回り、中学校では上回っている。
- 毎日同じくらいの時間に就寝・起床を「している・どちらかといえばしている」児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校ではやや下回り、中学校では相当上回っている。

(4) 『自尊意識・規範意識等』

- 自分には、よいところが「ある・どちらかといえばある」と思う児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校ではやや上回り、中学校ではほぼ同じになっている。
- 将来の夢や目標を「持っている・どちらかといえば持っている」児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校は相当下回り、中学校は同じになっている。
- 学校のきまり・規則を「守っている・どちらかといえば守っている」児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校・中学校ともに相当下回っている。

(5) 『その他、特徴的な項目』

- 平日、1日当たり3時間以上テレビゲームをする児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校では同じく、中学校は相当下回っている。
- 家の人と学校での出来事について「話をする・どちらかといえば話をする」児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校ではほぼ同じく、中学校では上回っている。
- 学級会などの時間に友達同士で話し合っただけで学級のきまりなどを決めていく児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校ではやや下回り、中学校ではほぼ同じになっている。
- 学級でみんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校では上回り、中学校ではほぼ同じになっている。
- 今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校・中学校ともに相当上回っている。
- 新聞やテレビのニュースに関心がある児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校ではほぼ同じく、中学校では下回っている。
- 読書が「好き・どちらかといえば好き」な児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校・中学校ともに下回っている。

【学校質問紙調査結果(学校の課題と取組)から】

- 小学校は、町内各校で子供の学力向上に向けて、「わかる・できる」授業の改善に取り組んでおり、学習の始めに何を学習するのか「課題」を明確にし、授業の最後に学習内容の定着を図る「振り返り」活動を位置付けるなど、学習内容が確実に身に付くような取組を進めてきた。調査結果からも国語や算数の学習が好きであり、役立つと考えている子の割合が多くなっており、子供に興味関心をもたせたり、実生活や他教科と結びつけたりするような授業の工夫が成果として表れている。

授業において、自分ひとりで解決するだけではなく、他との情報交流の場面を位置付けるなど、自分の考えを確かめたり、深めたりする活動を行い、他との共学による高め合いを進めている。加えて、町による学習支援員の配置により、よりきめ細やかな個に応じた指導を行うとともに、チーム・ティーチングや習熟度別指導など指導方法の工夫改善も行っており、確実な学力の定着を目指した取組が進められている。

また、家庭での学習習慣を定着させるために、国語・算数を中心として家庭学習の継続的な実施や宿題による基礎基本の定着を図っており、一層の内容充実を図っていく。学習の基盤となる子供の生活リズムを整えるために「生活リズムチェックシート」などを活用し、早寝・早起き・朝ご飯運動を保護者に啓発しており、一層の連携を進める。

子供の自尊感情や規範意識を高めるために、各校において、全教育活動を通し、

特に道徳の時間を中心として自他の良さを認め合うとともに、何故そのような決まりや規則が必要なのか考えさせるなど、規範意識の醸成と実践化を図る取組を進めている。

しかし、漢字や熟語、語彙数を増やすことなどの基礎的な「知識・技能」を確実に身に付けること、複数の資料や情報を関連付けて読み取ったり、考えをまとめたりする「思考力・判断力・表現力」の育成については課題がある。日常の学習活動で「言語活動」を一層重視し、読む、書く活動を充実させる授業研究の工夫が求められる。

- 中学校では、「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れる」ために、各教科で小テストや単元末テストを実施し学習の定着を確認し、補充の必要な生徒に対し補充的な学習や再挑戦させる取組をすることで、基礎基本の定着を図ってきている。1時間の授業内容や単元全体の学習内容をより分かっていく生徒が増えてきており、正答率の向上として着実に成果に表れてきている。

「学習規律の維持を徹底」することが難しかったため、アクティブ・ラーニングを主体とした校内研修を進めてきたが、「授業の最後に学習したことを振り返る活動」「言語活動を適切に位置づけ」「様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導」「発言や活動の時間」の項目も上位グループで回答できなかった。「模擬授業や事例研究など、実践的な研修」でも下位グループに属し、校内研修をより組織的に行うよう計画立てて取り組む必要がある。

「学校全体の学力の傾向や課題について、全教職員で共有」することも、上位グループが過半数を占めており、学力向上に向けた取組を推進していくためにも、全教職員が組織的に課題解決に臨む取組が求められる。

おわりに

本年度実施されました「平成 28 年度全国学力・学習状況調査」における本町の状況は、小学校は、国語A、算数Aが全道の平均正答率とほぼ同じで、国語B、算数Bがやや上回り、中学校は、国語 A・B、数学Aが全道の平均正答率とほぼ同じで、数学Bはやや下回るという調査結果でありました。

10 年間の平均正答率の推移については、年度間の差はありますが全国・全道平均より低い傾向は年々改善され、小学校については全国・全道平均を上回る教科もあり、これまでの取組が着実に成果を上げていることが伺えます。しかしながら、平均正答率が全国・全道平均より低い科目については、「習得することが望ましいと国が判断した学習内容」が、全国・全道の児童生徒と比べて身に付いていないということであり、基礎・基本の確実な定着に効果がある指導の着実な積み重ねの取組や、児童生徒の実態に合わせた更なる教育指導の工夫改善が必要と考えております。

また、児童生徒への質問調査からは、小学校では自宅での予習・復習など児童の家庭学習習慣の定着が伺えることから、中学校においても小学校で身に付けた家庭学習習慣をより確かなものとなるよう、小・中学校の連携を強化し、学習に関する関心や意欲の一層の向上を促す取組が求められているところであります。

教育委員会では、引き続き、各学校に学習支援員を配置し、更には、現在、各学校が取組んでいる放課後や長期休業期間の学習サポートなどに継続した支援を行うとともに、各学校と調査結果から明らかにされた課題を共有し、小学校から中学校まで一貫した学力向上策の推進に努めてまいります。

今後も家庭と地域と学校がより一層連携し、児童生徒の学習習慣や望ましい生活習慣の定着が図られるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。